No. 96

1960年 2月1日

千曲会報

昭和35年2月1日発行
長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可　毎月1日発行　定価1部15円　振替口座 長野 6243 東京 43341

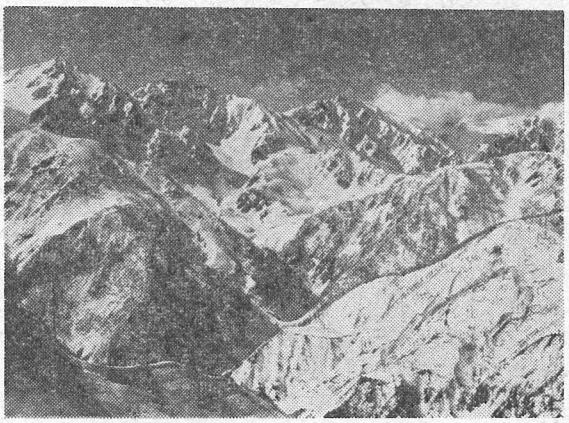
主な記事

化学繊維の紡糸について …1
西川さんの思い出 ……2
工学士の道 ……3
さろん ……4
会員近況 ……5

化学繊維の紡糸について

信州大学教授　隅田隆太郎

繊維とは物質の形態に与えられた言葉である事は御承知の通りである。従っていかなる物質でも所謂繊維の形態をとれば繊維と呼ばれる。例えば金でも銀でも繊維にすることが出来る。天然には繊維の形態そのままで産出されるものがある。綿，羊毛，絹，麻などである。人類はこれらを主として衣類として何千年も利用してきた。この内でも絹は最も高貴なものとして珍重され特に絹を産しない欧州ではこれを作り出すことが企てられた。黄金を作り出そうとする努力は黄金を作り出す事には成功しなかったが，無機化学及びその工業を生んだと同じように，絹を作り出そうとする努力は未だ絹そのものを人間の力で作り出す事に成功していないが，華々しい化学繊維工業を生み出した。人造絹糸製造の構想は 1664 年 Hooke 及び1734年 Reaumur が発端で，実現をみたのは約150年後化学繊維の祖 Chardonnet によってである。此の場合いつも手本になったのは蚕が絹を吐く所であり，蜘蛛が上手に巣を作る所であった。この天然繊維に帰って研究の手懸りを求めるのはいつの場合においてもオーソドックスな化学繊維研究の態度であると思われる。化学繊維は結局人間が如何なる条件を持った物質ならば，紡織に適した繊維を作り得るかを知るに及んで繊維革命の立役者とさせられた。その条件とは結晶性糸状高分子ということである。即ち化学繊維製造というのはかかる結晶性糸状高分子物質を繊維の形にすることであり，この繊維としての形を与えることを紡糸と言っている。



八方尾根より白馬連峯　柴崎高陽

紡糸を行うにはいつの場合にも何等かの方法で原料を粘い液体にしなくてはならない。液体は口金の小さい穴から押し出されて固化され紡糸される。この液体にする方法に①溶液法②熔融法，③エマルジョン法の三種類がある。今紡糸方法をこの原液の分散型式によって分類すれば次頁表示のようになる。

現在迄普通に用いられている紡糸法は溶液からの湿式紡糸と乾式紡糸，更に高温で熔融したものを紡糸する熔融紡糸である。熔融紡糸も乾式と湿式に分けることは出来るが，その固化方式は冷却固化で乾式も湿式も本質的に差異がないので一般に熔融紡糸と呼ばれている。第三の方法，高分子物質のエマルジョンから繊維を作る方法は最近になって研究されるようになり製造工程の考案等があるが，しかし未だ工業的に行われるまでには至っていない。各紡糸法の得失はその紡糸時の固化方式によって特徴づけられ，例えば乾式紡糸，熔融紡糸は紡糸された繊維が不純物を含まないので後処理が簡単になる，という調子である。

歴史的に見れば湿式紡糸，乾式紡糸，熔融紡糸の順に発達して来ている。これは天然に最も普遍的に存在し，優秀な繊維形成能を有する繊維素が熔融しないことから，繊維素の溶液からの紡糸が先ず研究され工業化されたことによる。繊維素は安定な物質で溶液にするのも容易でないが，溶解するのに二つの方法がある。即ち①イオン化溶解法と②誘導体にしてOH基による凝集力を弱め有機溶剤に溶かす方法とである。この中，前者イオン化溶解法によるものが湿式紡糸，後者誘導体溶解法によるものが乾式紡糸で主として紡糸される。熔融紡糸は高温で熔融する合成高分子物が原料となるに及んで急激に発達している方法である。即ち合成繊維と共に現れた方法と言える。

何れの紡糸の場合にも優秀な繊維を作るために必ず行わねばならない操作がある。即ち

(1) 繊維としての外形を与えること。
(2) 内部構造を実現させること。
(3) セッテイング

である。(2)の内部構造の実現は要するに繊維の方向に糸状の分子を並べることであり，(3)は実現した内部構造を固定する

ことである。(2)は繊維の可塑性に延伸とか摩擦により行われ最も主要な操作で繊維の良否はここで定まる。合成繊維の有利性は此の(1)，(2)，(3)の操作を夫々別個に夫々に最も適した条件で行いうる所にある。その為に非常に簡単に強い優秀な繊維が得られるのである。

紡糸方法の分類

原液	紡糸法	紡糸時の固化方式
1 溶液	湿式紡糸	脱溶媒
	乾式紡糸	蒸発固化
2 熔融液	熔融紡糸(湿式乾式)	冷却固化
3 エマルジョン	湿式紡糸	脱溶媒(粒子連続化)
	乾式紡糸	蒸発固化（粒子連続化）

エマルジョン紡糸は今後の問題であるが，特に問題になるのは粒子の連続化の過程が入って来ることである。しかもエマルジョン紡糸の成否の鍵はこの粒子の連続化を如何にうまくするかにかかっている。エマルジョン紡糸の特徴を挙げれば次の如くである。

(1) 乳化重合法による生成エマルジョンがそのまま紡糸原液となる。

(2) 分散媒に水を使うことが出来る。

(3) 溶解や熔融が実際上不可能な高分子物でも繊維に出来る。

(4) ポリマーブレンドが容易である。

(5) 粒子の連続化が問題である。

以上紡糸は化学繊維製造の中心過程であり，現在迄の化学繊維工業はこの方法を行うことを任務として来た。しかし化学繊維工業を原料から製造迄概観すれば

(1) モノマーの製造

(2) ポリマーの製造

(3) 紡糸

(4) 加工染色仕上げ及び紡織

ということになる。今迄の繊維素を主体とする化学繊維では紡糸に力を入れさえすればよかったのが，合成繊維の発達につれて(1)，(2)のモノマー，ポリマーの製造が非常に大きなウエイトをしめることになった。これは特に注意しなければならない所で，今後合成繊維の競争は(1)，(2)の競争であり，化学工業会社がぞくぞく合成繊維を製造し始めているのはこのことに基因している。これは化学繊維製造原価の大半が原料価格で占められ，その80～85%が原料と設備費に用いられているのが現状であり，しかも合成繊維は極論すれば炭素源さえあれば如何なる物からでも作ることが出来る自由さを持っていることを見れば事情は更に明かになる。

終りに現在行われている押出し紡糸法以外にロックファイバー製造のように，遠心力を用いる方法もあることを附記して化学繊維紡糸の概観を終る。

西川さんの思い出

羽島不二夫

一高時代には左翼運動の闘士として活躍し，上田中学奉職の時分には組合運動に挺身されたこともあるというのだから，実践力に欠けた人と評するのは当らぬだろう。だが，この十年間，私が親しくおつき合いした限りの西川さんには，実践家とか行動派とかいった俤は見当らなかった。少くとも，晴れがましい地位に身を置いて羽振をきかすというようなことは西川さんの柄にないことであった。人から求められれば，何でも快く引きうけ，誠実に任務に当る人であったが，自ら求めて代表とか幹部とかの地位につくことほど西川さんの本意から遠いものはなかった。

もちろん名利には淡白であった。真実の追求をめざす哲学の学徒としては当然のことでもあるが，これほど世俗的な利害や葛藤に超然としていた人も珍らしい。では物思わぬ人かと言えば，決してそうではなかった。むしろ思いあまって己れの身を縛っていたと思われるふしがある。容易に自己を顕示したがらない控え目な態度や発言は，内面的な自己省察と自己否定から来たものであり，また，多角的にものを考え，各要素が釣合って均衡点に達するまでは動こうとしない重厚な性格の然らしめるところであった。とかく党派的になりがちな実践活動に傍観的であったのはここから来たものであろう。それだけにまた，容易に打ち砕けないヒューマニティの殻――しんの強さを持っている人であった。それは否定に否定を重ね，抑制に抑制を加えた結果到達した信念の凝魂とも言うべきものである。

こう言えば，内攻的な抑鬱型ともうけとられるだろうが，そうではない。むしろ気軽にものを語り，よく人の言葉に耳を傾ける如才のない人であった。弁舌はさわやかという方ではなかった。一語一語に思いをこらすというようなところがあり対象を見つめながらその形象を丹念に描き出すといった風の話しぶりであった。私との話題は哲学，文芸，社会時評，人物月旦，婦人の生態など多方面にわたったが，釣と食に関するものが最も多かった。興が乗ると，幼児のように眼を輝かせ，時に声高く哄笑するという一面もあった。西川さんの哄笑は腹から息を吐き出すのでなく，喉に空気を引き入れつつ声を出すのが特徴であった。こういうときには童顔そのものである。趣味は釣くらいのもの，最近はバラ作りに熱中して居られた。甘党で下戸。冬になると，よく焼芋を買って来て，研究室で食べたものだが，こうして書かなければ誰も知らずにすんだことである。

我慢強いことは無類であった。11月の初めに胃の手術を受けたところ，すでに末期症状に達していた肝硬変症が発見されたのであるが，亡くなられてからの人々の話を綜合するとかなり以前からその兆候を自覚して居られたらしい。1年近くも前から肝臓病の薬を飲みながら，医者に打ち明けなかっ

たのは決定的な宣告を受けるのを怖れていたためであろうと思われる。それだけに，内心の不安は並大抵でなかったに相違ない。けれども，始終一緒に居ながら，私はかつて憂悶の色というべきものを西川さんの顔に見たことがない。顔色はよくなかった。体の倦怠感はひどかっただろうに，ふだんのように授業をし，論文を書き，組合の仕事をし，入院の僅か20日前というのに本部の補導協議会にも出席されたのである。

手術後は自己の命数を知って居られなかった筈がない。

——どうですか——私の見舞いに対する返事は，

——大丈夫です——だった。わがこととなると，極めて深刻な内容をさりげない言葉で表現する人であった。

（昭和35・1・12）

工学士の道

白井　美明

近頃の工学士諸君の実態はどんなであろう。日本工業教育協会誌から摘録し紹介しよう。ここ数年来理工系学生定員の増加があったので先ず昭和34年度工学系入学定員表を見ることとする。それによると国立39大学に該当学科は67学科あり，入学定員10.321名となっている。公私立大学では27大学に該当学科数22学科あり，入学定員9970名（内夜間3080名）となっている。それで合計入学定員は理工系で2万余名となる。その内容について見ると機械系電気系をトップとし，化学系土木建築系が続き3000名以上となっている。亦繊維系は650名で公私立大学に設置されているものは一つもないことが特長である。日本産業の過去の発展に国立大学の果した役割を之は物語っているものである。勿論他系学科に於ても今日繊維関係の研究が行われていることは周知の通りである。別に大学院の他，短大に6000名余の定員が用意されているが省略する。

これ等を卒業した人等は就職上どんな傾向を受けているだろうか？　日経連の昭和33年3月卒業予定者採用についての全2月調査を読んでみる。この調査は当時の不況の影響を受けており，調査日の関係から大学卒業生全員の傾向ではない。しかしこの調査は事務系を含み，製造業を中心とした企業で約600社について行われ，500名未満規模の企業が4分の1含まれているところに重要性がある。

この調査報告の概要によると，不況に原因して不採用会社数と採用人員数は数%減少しているが，中小企業の採用数はかなり増加しているとし，明るさがもてると云っている。また製造業では事務系よりも技術系の採用者の占める割合は年々増加し4対6となっている。そして大学院，短大卒業者は4年制大学卒業者に比し就職の機会が少くなって来ている。

採用試験は殆んど10月と11月とに集中し，僅かに縁故よりも公募の傾向が増している。また卒業校の指定は僅かに減少して来ており，受験の機会は若干ひろげられつつある之は調査日の関係から大企業の採用傾向の影響によるらしく，この調査では未だ特定の大学に限るという採用条件は80%もある好況期到来毎に是正されて行くものと考える。

選考方法で面接試験，筆記試験，身体検査は殆んど行っており，採用決定の重要度は面接結果による人格人物評価が最も高いと報告されている。この調査中から理工系の採用傾向をみると昭和29年4月を100とした場合，法律政治，経済商学，文学，農林水産，その他いづれも昭和34年4月に105内外の微増に止まっているのに反し，理学194工学135の増加となっている。このため全体として115の指数となっている。之は経済活動の方向を示していると考える。また採用実数は工学34%で最多を占め農林水産1%強で最少となっている。その初任給は平均13529円で事務系より約400円高い。技術系採用企業の業種の内前年より採用増となったものは電気機械器具をトップとし，印刷，非鉄金属，雑貨，映画等サービス業である。

以上は比較的恵まれた新卒予定者10.218名についての結果となっており，この内の理工系新卒予定者中に当学部卒業生が何名割込み得たか知りたいものだ。1960年の結果は知らないが，向上していることを期待して筆をおく。

（信大助教授）

年賀状雑詠

鈴木　教吾（糸8）

○ 年毎に職場変れど変らぬは君毛筆の年賀状よな
○ 七年前別れし君の年賀状またも変りし職場名悲し
○ なつかしき年賀状よな去年の春居を東京に移したりとて
○ 八年前遠き旅路の護符請けて吾れの首に掛けてし君はも
○ 四十余年前に文して返へしごと無かりし人の年賀状かな
○ さりげなき水茎のあと遠き日を知らざりし如愛しくもあり
○ いく年も絶えしことなき人の賀詞今年はあらず心憂しかも
○ 亡き夫のみ霊と子等を守り来し老いたる人にまがことありしか
○ 名前無き年賀ハガキを手に取りて著るき筆癖微笑みて見つ
○ いづこより知り給ひしか吾が住所小学校時の先生の賀詞
○ 覚えなき女名前の年賀状去年の嫁ぎを添書きにして
○ 名は知れど会ひしことなき人よりの十年も絶えぬ年賀状かな
○ 社長てふ肩書のある年賀状重複二葉の四人もありし
○ 世を断ちし吾れに四百の年賀状嬉しくやがて淋しくなれり

Chikuma Salon

信濃のいかもの

戦時中食料難になやまされた人は，当時物を選ばず手当り次第に胃袋につめこんだことを思い出すでしょう。現代の高級の料理にあきた人々や，いわゆる悪食会などと言う催しで，考えただけでも胸にこみあげてきそうな無気味なものを賞味（？）することがゲテモノとかイカモノ食いとか，言うたぐいである。これは往昔人類未開のころ食べた悪食が潜在意識からよみがえり万物の霊長と自負する現代人となっても食通（？）と称して人がおじけをふるうようなものを食べて通人ぶるのであろう。

閑話休題——信州には古くからこのいかものに類する食べものがたくさんある海のない信州人が考えだした一種の郷土食とも見られる，またこれらのものは大体栄養，強精万点と言われ，新しい栄養食の提唱者G，ハウザー博士の新食品や近代医薬の効果も及ばないような効きめがあるらしい。そのうち吾々にもいただけそうな二三のものを書いて見よう。青春時代の3～4年間を過した上田のあれやこれを思い出し乍ら読んで下さい。

(1)毒キノコ，—ハエトリダケ，猛毒のキノコであることはだれでも知っている上田地方ではこのキノコを平気で食べるそれには食べかたがある。まづキノコを日光でよく乾かし，（その前にゆでればなおよい）また塩漬にして後で料理すると松タケに勝る風味があるとして賞味されている。

(2)蚕の蛹，蛾，— 戦時中食料欠亡の際は学校の職員達もこのお世話になったもので，このために栄養失調にもならんで済んだかも知れない。今は誰も見むきもしない。フライパンで油（またはバター）いためをし砂糖，醤油で味付けすれば完全な栄養食である。蛾は羽毛をとり水に入れて鱗粉を洗いおとして佃煮とし蚕種家の間で好箇の副食物として珍味されている。

(3)ゲンゴロウ虫，— 諏訪地方では黒いのをゲンゴロウ，茶色がかったものをトウクロウと言う。この食べかたは，よくゆでて羽根，足，頭をとり佃煮として食べている。上田地方の塩田町一帯では冬季に池の水をかき廻し水面に浮きあがったゲンゴローをとり，ゆでて羽根，足をとり，油いためやフライとして食べている，形は悪いがその美味は蚕蛹や蛾にまさると言われている。

(4)ザザ虫，—上伊那地方では常食としている。ムカデをハチの子ぐらいに小さくしたグロ味のある虫で釣天狗になくてはならないものである，その成虫は初夏の早朝一斉に脱皮し，空を覆うて羽化登仙し，峡谷や川の上をとびかう壮観さはすばらしい。冬季川底の石の下から集め一度ゆでて水をのぞき煮付けて酒呑みのツマミとして珍重される，伊那市ではカン詰として加工されていると言われている。

(5)ヒキガエル，—北佐久地方（蓼科地方）で賞味されている，4～5月頃の繁殖期になるとたくさんのカエルが池や沼地に集まってくるのでこれをつかまえる

食べ方は皮をむいて付焼，焼いてミソ汁に入れるとか，串刺にして乾かして保存食とする，山の栄養食としては第一等のものである。赤ガエルのミソ漬はタイのミソ漬以上に美味なものと言われている。

(6)カラスの田楽，—上田地方の名物である。国分寺八日堂の縁日にはつきもので大正末期まではこのカラス田楽の露店が軒をならべていたと言われるが今はほとんど見当らない。たべ方はローソク焼と言って水をしぼったトーフ，オカラ，ネギ，ショウガをまぜ，これにカラスの肉を骨ごとつぶしてまぜ，細い棒に焼竹輪のように，にぎりつけこれをぢか火で焼いて醤油，砂糖のタレをつけて食べる人によってうまいと言うものと，肉がくさいと言うものとあるが味はマアマアと言うところ。

(7)ハチの子，—信州のイカモノのうちで，味において栄養において最高級のものである。信濃路を訪れた天皇陛下や貞明皇后も賞味された由である。このハチは俗にスガラと言い，本名はクロスズメバチと言う地蜂の一種である。夏の終りの8～9月頃ハチの巣を見つけ，幼虫をとり出して砂糖ミリン酒，醤油で味付した汁で4～5時間トロ火で煮つめる。以前から佃煮のようにしてカンヅメとして売出されているが本当の味は生のものでなければ味わえない。今ではイカモノの域を脱し，全国的に有名になっている。栄養価高く，強精食としても珍重され，この方面の愛用家が多いとか，しかし高価なのが難点である，巣の375瓦からハチの子188～225瓦がとれるそうだ。375瓦の巣が150円から200円するそうだ。

（荻原清治 糸12）

新任地の感想

後藤春雄

上田市というのはよく前から聞き又見ていたが，此処で住むようになろうとは一寸想像できにくい気がしていた。しかしこうやって生活を始めると，人生環境とは思いがけない方向に進んで行くということがつくづくと思われる。工学部で応用化学を学んで或る程度工学部的雰囲気に触れてから，理学部で純理論を学んだ私は会社に入って経済面的にのみ生きるというか，利益追求を主目標とする機構や会社人に接して来た後，新制大学のこの繊維学部の人々と接し始めた。人々はそれぞれの環境によってそれぞれの経験に依る特徴の有る気質を作っていると思っているが，今後静かにかつての会社人と今度の大学社会人との気質の真実をゆっくり眺めてみたいと考えている。各県庁の役人や夫々の土地の人々と接している土木人が，各土地毎に如何に人柄が異っているかを強調したことがあるが夫々の社会を形作っている人々の心理や思想を或る程度よく分析比較して，自分の住んだ或る傾向の社会だけが凡そ人間の作る社会の一般性質であるとは思わぬようにしたいと私は生活を此処で始めると共に先づ考えた。

以上が私の上田に於ける対人間的考え第一歩であった。そして今後ゆっくり人間を観察してゆく積りである。

あまり今後の私の専門とかけ離れたことを書いてしまったが，学問とても人間がやる以上やはり隣人のことを考えざるを得ない訳ではある。所で今度は物質的環境であるが，今の私の研究室は机と実験台とがあるだけである。これはゆっくり眺めている訳にはゆかない。さし当り理論的なものを扱ってゆく他ないと考えているが，兎に角限りある身の力を尽めすのみである。そして大学の本質がはっきりと当学部の人々によって認識されていて，その本領に即した，学問を真からしたいと欲求している人々がさびしさを感じない場であることを願っている。

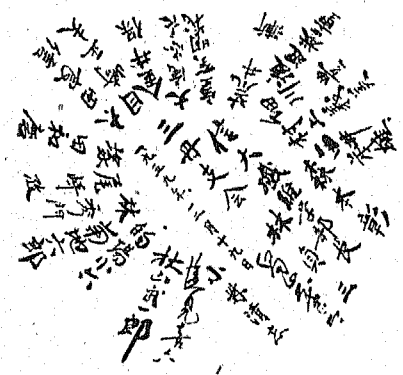
（信大助教授繊維化学科）

会員近況

三丹支会総会便り

暮れも押し迫った12月19日。綾部の会場は名物のぼたん雪が30糎も積った。この日林学部長をお迎えして，会員の出足は元気よく定刻の午後6時15分には22名にも達し開会された。

林学部長から八木新会員支援に対する謝辞の後新しい時代に即応する母校の新体制が着々と進められている模様を詳細にお聴して会員一同喜色満面。更に当支会の50周年募金も順調に運んで，本部割宛に対し138％にも達し近くその金額を本部へ送納することとなったがこれ一重に支会員の母校愛に燃える情熱に他ならないとの報告があった。



本年度役員は次の方が就任された。

支会長	小林清志	(糸17)
副会長	細川豊	(蚕19)
幹事長	太田良信	(糸17)
幹事	林秀門	(糸19)
	村上義美	(糸24)
	塚田和麿	(糸25)
	森本彰	(蚕27)
幹事（事務局）	目崎正夫	(蚕28)
	金井保	(蚕34)

懇親会に入り宴は盛となり，互に積る話に花が咲き，林先生の台湾遠征の珍しい歌，さてはバッパや応援歌が深更に及ぶも尽きなかった。次の日旅館のおかみさんの云うには「皆さん随分よく召し上られました」と。（金井保記）

兵庫支会総会

千曲会兵庫支会は11月14日紅葉の六甲山を望む国際港都神戸にはるばる母校より野口先生をお迎へして会員20余名参加し午後5時盛大に開会された。

会議は大塚支会長の挨拶に始まり，鈴木副支会長より支会会務報告，望月会計幹事より経費収支決算の報告も滞りなく承認され，野口先生より母校や千曲会，特に50周年記念行事について協力要請，旁々種々お話があり次で役員改選に移り下記の通りそれぞれ選出された。

支会長	大塚重蔵	(糸8)
副支会長	鈴木玄九	(糸18)
幹事	望月弘	(糸18)
	岸本礼一	(紡24)
	宮入治男	(糸35)
	小山彰一	(糸36)
	中村富隆	(糸大5)
	石井昭衛	(糸大6)

会議終了後支那料理を囲んで懇親の宴を張る。珍客として大阪支会より野口先生と同期の若林新一郎氏（糸10）が特別に出席され野口先生を中心に意見交換，要望，懐古談等に花を咲かせ校歌「御国のために」を斉唱して午後9時散会した

（紡24 岸本記）

近畿千曲会総会によせて

晩秋の日ざしやわらかに，大阪名物御堂筋の既に黄金色に変じた銀杏の葉に照り映える11月15日の昼下り心斎橋東天閣において恒例の近畿千曲会総会を開催した。昨年11月戦後の支会が再建せられてから2回目の総会である。

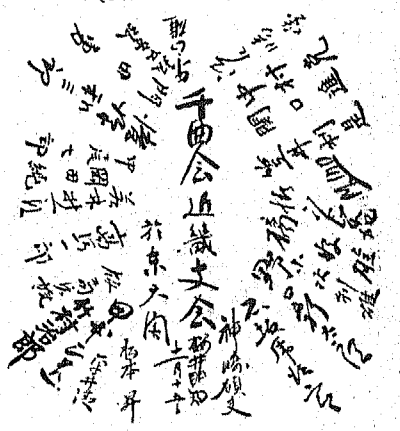
当日は蒼天高く澄みわたった絶好の行楽日和，日曜日にも拘らず会員多数隣県各地より遠く山野を越えて御参集頂き全く以て「友あり遠方より来たる」で懐しさも一入深く同窓会ならではの集いであった。

母校より理事長野口先生を迎え地元からは石坂虎治郎支会長，甲本（糸7）飯島（紡1），若林（糸10），中尾（紡5）江口（化1）等の長老に中堅，新進気鋭の学士諸兄まで併せて総勢26名が席を交え心暖まる一夕を過した次第である。

席上まづ野口先生より千曲会理事長として母校50開年記念事業について詳細に亘り御懇切な御説明に併せて今後更に一層の協力方要望があり，続いて石坂支会長の挨拶，並びに先頃の本部総会出席について報告があった。更に井野氏から近畿地区の寄附金，並びに会費納入状況について報告があり，終って本部への要望について協議に入り母校の研究活動その他について甲本先輩を始め松本昇氏外多数の会員より熱心な意見が述べられた。寄附金については，関係者の大多数は殆んどが繊維若くはこれに関連する事業に従事していることであり，それも最近やや上向いて来たとは云え経済的には未だ何処も同じ秋の夕暮の状態の中でいささかお叱りを受けるかも知れませんが既に100％を達成した支会もあるということですから吾々としても当支会会員各位により深い御理解を頂き目標達成に頑張ろうではないかと云うことを出席者一同申し合せた次第でありますが会員各位におかれましてはこの際一層の御協力を賜りますよう切に御願い申し上げます。

芳じゅん腹にしむ灘の美酒に陶然となり，時間も，足も忘れて歓談しばし，寄書，記念撮影ののち，野口先生，石坂会長の音頭で交々母校，近畿千曲会の万歳を三唱，それぞれ来たる日の再会を約しそして次回にはより多くの会員各位の御参集を期して散会した。

（34. 11. 18 化6 笠井記）



大正13年同期生会記

昭和34年11月22日それは愉快な1日でした。大正13年卒業の同期生会を開いたここ，船橋のヘルス，センターは前夜来の雨も斉れ上って快晴温暖，附近ではゴルフの白球が飛び遊覧飛行機が次から次と離陸して行く絶好の同期生会日和でした。

10時頃には松本の水城孝勇君先づ到着1風呂浴びてから附近の散策に出掛けます。ついで高崎の長谷川正雄君御兄弟が到着，何でも信州，上州方面の農村ではこのヘルス，センターが頗る有名で養蚕組合等でも行って見ようではないかとの気運があるので様子を見に来たとの事でした。その内，養蚕10回でかつての朝日賞に輝く山本三六郎君が特別参加としてわざわざ大阪から馳けつけ此の会合に花を副へて頂いたのは有難い事でした。

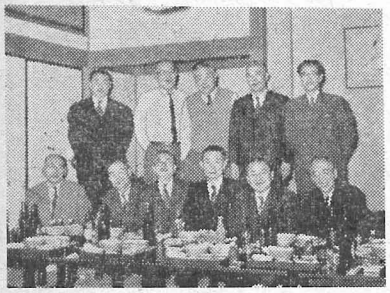
処が定刻14時になっても地元の集まりが悪く，清水衛敏君は心配して自動車の終点迄出張し，張り紙をするやら，又山本三六郎さん名義で浜香三君の宅に電報を打つやらして世話人大いに心を痛めま

したがそれでも15時頃には予定者全員即ち上記の外田角又十郎，石原六朗，塩田健介，宮本静雄，浜　香三，小山　清，青木友弥の計11名が集まりました。尚小山　清君はここが済んだら其の足で上田の千曲会総会に出席する由御苦労様でありました。

そこで次の事について話し合いました

1）次回同期会開催の件

真剣に討議した結果来年は学校の記念祭もあるので之を機会に信州で開く事とし松本の水城君を中心に石井謙三香山清和の皆さんに世話役を御願いして準備して頂く事とした。いずれにせよ北は北海道から南は九州宮崎まで散在している皆さんに集まって貰う事は実際問題としては仲々大変で今回の11名の集合もむしろ成



功だと嬉んだ次第ですが来年度は更に立派なものにしたいので皆さん今から其の準備を宜しく御願い致します。

尚大正13年卒業生に限らず13年を中心に上下1年位の人々に呼びかけたらとの意見もありますので世話人で研究して貰うことにしました。

2）学校並に千曲会に対する協力

学校に対する協力に就ては色々話が出ました。何れにしても吾々年輩の者にとっては戦後の学制改革で学校とのキズナが切られた感じが強い。大正13年頃は学生にしても全国的な集りであったが最近は駅弁大学に転落地元の学生が主になった学校との連絡も通り一遍で，余程身近の問題でも無い限り積極的に協力する気が出ない等論議された。仲には石原君の様に何が気に入らぬのか就職問題では一切協力せぬ等発言がある仕末でした。

千曲会に対しても辛辣でした。殊に東京支会には強い批判がありました。聞く処によると東京支会の会費納入状況は今春の調べでは約24％程度との事。之では何の仕事も出来ないのが当り前で依って来る原因はやはり学校なり千曲会なりに対する近親感の喪失と連絡の不充分にあるとの意見の様でした。

結局，学校なり千曲会なりに対する悪口は本心ではなく，どうすればその関係がもっと良くなるかと考へているのに外ならぬのです。

そこで愛校心の権化とも云うべき小山清君が23日の千曲会総会に出席するので，此の会合に出た意見を総会に反影する様に努力して貰う事で此の話は打切りと致しました。扨て此の連中還歴もそう遠くない面々ですが頗る元気でよく呑み食い，且つ歌って踊って愉快に過しましたが，中島茂君の義歯の話の次第もあり年齢はあらそへぬものとの感を深く致したものです。

尚此の会合に出席を御願い致していた石倉新十郎先生には折悪くし風邪の為御出で願へず残念でしたが折角御自愛専一を祈る次第であります。

（青木記）

森ノ石松「呑海水会」

静岡　戸倉吐月峯

◇一菊香薫り初めた10月25日の今日，昨秋浜名湖巡遊の時予約した通り森の石松会は遠州の暖国最突端御前崎燈台見物を兼ねて秋の例会を催した。

◇一生憎ゲストの倉沢大兄が足底に古釘をさして信州からよろめき御入来なかったのが淋しかったが，珍らしや40有余年一度も誰とも面会した事のなかった手拭フンドシ君の特芸のあった堀本省一君の

初参加で人気湧き，当番幹事絹村貢先輩の司会と斡旋で佐藤会長の外，大箸全快神経痛，湯川ニセ博士，近藤代書，戸倉吐月峯の面々7人は打揃って御前崎の海水を呑みに出掛けたと云う訳である。

◇一この燈台は明治の初め頃海難に遇ってこの岬に救い上げられたお礼に英国人の手で建立したと云う因縁の古い燈台とか説明者は語ってくれた。燈台の最頂上に上って四海の景観に見とれたがハワイや米国など一眺に見へるような気がした程である。それから少し離れた新設中の現代人工港御前崎築港を見学して昼頃市内の料亭に陣取って懇親の小宴を開き一年振りの歓談に時を過した。

◇一会員中の物知り湯川偽博士は喜びも悲しみも幾年月倶にする七人侍と呼称するがあやしいもので七人の悪老と云う方が適切であろう。不相変の佐藤仏法講義もそろそろ出たし，絹村老の課長時代の悪所遊びの思い出話，堀本聖人の山登談などに花が咲き，秋の陽も西山に傾き出したので一同記念の「寄せ書き」を書いて1日の慰安会を終って帰路についた。

長島栄一氏の学位論文
東京大学農学部教授会通過

信大繊維学部長島栄一助教授は「家蚕皮膚に発現する諸型質の発生遺伝学的研究」と題して学位請求論文を同大学に提出中のところ昭和34年12月17日付をもって教授会を通過した。

技術士国家試験合格者

昭和34年度技術士国家試験に合格し名誉ある技術士の称号を得られた方は

石　松　　博（糸24）（金属部門）

青　沼　　茂（糸33）（蚕糸部門）

の2名です。他にも未だあるかも知れませんが国家試験はこれが第2回目ですから続々と現はれることを切望いたします

50周年記念事業募金申込

1　東京支会

10.000円　唐木田藤五郎（糸6）合田信一（糸11）

5.000円　山本辰五郎（蚕1）　三宅国留（紡4）岡田重一（糸22）矢沢茂登一（蚕1）石原満州夫（蚕21）小沢周一郎（蚕10）塩田健介（糸11）鈴木教吾（糸8）木内保平（糸2）

4.000円　早乙女徳蔵（蚕17）　土屋二三男（糸24）

3.500円　中島藤治（糸26）

3.000円　篠田鎌一（糸28）

2.100円　依田寅之助（糸10）

2.000円　原田幹雄（学化6）　宮川千三郎（蚕20）平野英雄（化6）峯村稔（学糸1）山岸秀夫（化8）新田佳男（糸36）小野繁（糸35）野口典夫（糸35）鷹野昭八（糸35）

1.500円　滝沢一雄（学化7）　田中重徳（学糸2）細田栄一（学糸3）

1.000円　宮崎和男（化8）　寺島利一（学糸3）小井土基博（学糸5）

50周年記念事業募金申込状況

(35. 1. 21現在)

支会名	募金申込額 人員	募金申込額 金額	達成率 (%) 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120 130 140 150
北海道	4	7,500	
北奥	29	51,900	
山形	17	58,000	
宮城	23	78,500	
福島	53	147,500	
茨城	42	78,000	
栃木	20	40,500	
群馬	68	205,000	
埼玉	102	238,000	
千葉	12	54,000	
東京	151	408,100	
神奈川	43	118,500	
山梨	22	43,000	
越佐	10	34,000	
富山	42	89,000	
石川	16	34,750	
福井	13	35,200	
北佐久	17	81,500	
南佐久	18	50,000	
上小	103	327,800	
学内	98	464,070	
更埴	68	181,900	
北信	76	205,500	
安筑	79	200,500	
諏訪	35	215,000	
竜川	16	43,500	
岐阜	31	92,000	
静岡	19	60,500	
愛知	194	394,600	
三重	27	57,600	
近畿	70	187,200	
兵庫	62	161,600	
三丹	44	161,000	
山陽	22	74,500	
山陰	14	42,000	
徳島	12	40,500	
高知	8	15,500	
愛媛	41	80,000	
香川	1	10,000	
北九州	26	77,500	
熊本	10	23,500	
宮崎	7	26,500	
鹿児島	11	30,000	
計	1,776	5,025,720	

母校だより

○1月9，10の両日と17，18の両日との2回にわたり職員のスキー講習会が1月15，16，17の3日間にわたり学生のスキー学校が菅平でそれぞれ開催された。

○1月11日教官会議が開かれ50周年記念事業実施について協議された。

○35年度入学試験について

出願期日　本科，別科とも35年2月11日(木)から2月20日（土）まで

試験期日　本科，35年3月22日（火）23日（水）の2日間
別科，35年3月24日（木）の1日

試験科目　国語，社会，数学，理科，英語

試験場

本科
- 上田……繊維学部
- 東京……お茶の水女子大学（東京都文京区大塚町35）
- 名古屋…名古屋大学工学部（名古屋市千種区不老町）

別科……繊維学部

本会日誌

○1月14日会報編集委員会開催

○1月16日母校50周年記念事業協賛会発起人会を上田市商工会議所に於て開催林学部長，清水事務長，野口理事長，中島理事出席。

50周年記念事業募金申込

1　東京支会

1,000円　寺沢清（学化2）　大塚耕介（糸34）斎藤幸夫（学糸1）竹原甲三（農2）古平照男　（化5）　三井尚敏（農2）井上亨(農1)小川原禎寿（学蚕4）城右治夫（糸34）

500円　荻原弘子（糸別7）富岡恬(糸別1）玉井睦（糸別5）

2　神奈川支会

5.000円　梅沢万次郎（糸7）　高橋誠（糸13）大池登（糸8）

3.000円　大田正治（糸12）　酒井淳夫（糸18）滋野文雄（糸19）

2.000円　田口喜一郎（糸18）　坂田義明（化7）

1,500円 清水邦達（化2）
1,000円 神崎閑一（糸23） 田中早苗（糸38）山本和男（糸38）宮下三枝子（学糸7）青木喜平（学糸4）石塚敏夫（糸35）佐久間政志（糸37）

3 愛知支会
3,000円 松吉博隆（蚕25） 足立統三（紡27）
2,500円 田中栄一（紡26） 吉野和夫（紡26）
2,000円 高村八郎（紡28） 稲垣文一郎（糸23）新実和男（蚕35）松井正之（紡28）佐々木利為（紡29） 中村克美（化9）波多野秀民（紡27）増沢 有（学紡4）藤田徳三郎（紡27）樋口博文（学化1）武田昭一（学化6）杉坂輝夫（蚕33后）宮坂修二（学化8）田村志郎（学化8）橋詰忠夫（紡27）小森栄三（糸37）巣山恭二（紡27）平井昭次（紡30）滝沢喜三（紡26）金子新一郎（糸17）佐藤良夫（蚕33後）
1,500円 関口清登（紡30） 北条博史（化9）細川恭徳（学糸6） 山浦幸二（紡29）水野幸男（学紡1） 平林藤一（紡30）山本 正（糸38）島羽久雄（学紡1）
1,300円 片井弘雄（学蚕5）
1,000円 青木仁夫（学化3） 服部虎雄（紡2）岡田喜六（糸31）本田修（学糸3）渡辺栄治（学紡2）工藤亮（学糸3）宮坂憲吾（学紡7）鈴木孫一（糸4）原博昭（学化6）中島正喜（蚕21）田岡実（糸21）古川俊之（蚕10）土屋克視（学紡4）池内才八郎（学紡5）宮崎正（学化7）浅野弘三（学化7）近藤謙朗（蚕32）高橋国清（学紡4）北村賢（学化6）小川善男（学紡7）長峯泉（学蚕2）宮坂修二（学化8）小池幸澄（学化4）入江洋一（学紡2）花岡万寿夫（蚕37）加藤秀和（学化7）谷川良裕（学紡7）倉沢秀夫（紡30）田中貢（紡28）川島竜二（学蚕1）今井邦夫（紡27）神林正幸（学紡1）吉橋俊夫（学紡7）高橋清司（紡27）深谷正一（蚕10）加賀美敬信（学紡7）三浦正夫（糸31）佐野一英（化5）宮崎正雄（化3）

4 三重県
5,000円 田中康雄（蚕4）

5 近畿支会
10,000円 安井義忠（糸6）若林新一郎（糸10）安井健一（紡7）
5,000円 江口晴雄（化1） 井野正夫（糸18）藤本斉（紡8）
4,500円 尾沢敏男（糸22） 百瀬文雄（紡14）滝沢和三郎（紡12）横沢平（糸21）黒岩君雄（紡14）小沢利雄（紡14）
4,000円 北沢茂樹（紡16）天野彰（紡15）内田敏（紡15）
3,500円 柴田尚（紡20）
3,000円 山本周三（紡23） 清水茂一（糸31）柳沢信（紡24）
2,500円 辻本豊（化4）西野礼（糸33）
2,000円 横田建三（紡20） 長谷川浩三（紡28）中村克（紡29）大橋富次郎（紡4）平井清（紡28）近藤伸一（紡29）小林義定（化7）山崎芳（化8）鹿野清一（化7）河辺荘六（紡27）
1,500円 河辺謙（紡30）田中秀幸（学紡1）
1,000円 石井勝（蚕36） 堀内清（蚕31）竹村治郎（学紡2）桜井延喜（学糸2）古川元彦（学紡5）岡田敏（学化2）白井英男（学化4）金子隆一（学化4）三浦秀夫（学蚕4）菅原力（学化5）内藤茂美（学化5）中村富男（学紡5）伊藤智夫（学化4）小泉仁（学化3）

6 兵庫支会
3,000円 奥正己（旧職）
1,000円 石橋博（化3）坂田義人（学紡5）

7 三丹支会
5,000円 内田訓之亮（蚕13）
4,000円 植田実（紡17）
3,000円 荻野俊一（糸8） 坂根宗太郎（紡21）
2,000円 中村輝子（教5）
1,000円 岡田康三（糸3）

8 山陰支会
5,000円 黒岩竜（糸9）磯部英一（糸17）西本朝平（蚕15）倉元隆太（蚕20）伊藤幸男（蚕22）
2,000円 芦谷鉄郎（蚕33） 佐藤照八郎（糸34）真松広四郎（糸35）荒井汪人（糸37）小村一陽（蚕32）
1,000円 田中治雄（学蚕2）

9 山陽支会
5,000円 秋山武一郎（糸19） 門平潤一郎（蚕9）
4,000円 藤田六五生（糸25）
3,500円 高岡米治（紡19）
2,000円 中村春彦（化9） 柳沢千代茂（化2）那須野昭文（化7）
1,000円 岡本正男（蚕19）

10 徳島支会
5,000円 遠藤文平（糸1） 村田一由（蚕18）
3,000円 林邦治（蚕30）岡弘（糸31）
2,500円 米田繁一（紡26）
2,000円 依田達郎（化7）
1,500円 川人良次（紡21）

小 計 588,900円
累 計 **3,943,950円**

特許・実用新案 意匠・商標 出願・審判・訴訟代理
浜特許事務所
弁理士 浜 香 三
事務所 東京都千代田区麹町三丁目一番地
大野晋特許事務所内
電話 (30) 1444番
自宅 むさしの市緑町 公団住宅7の302

編集後記

巻頭に隈田先生の貴重な寄稿をいただき，鈴木教吾氏から雅趣豊かな短歌14首をよせられたのを初め御寄稿各位に感謝します。多大の御高配により記念事業募金申込も目標今一歩に進捗しました。

編集部員の一部交替制により1月から一之瀬，三石両氏にかわり小笠原，滝沢両氏にお願いすることになりました。寒気厳しい折会員皆様の御健勝と御奮闘をお祈りいたします。

編集理事 田口 亮平 白井 美明
編集部員 篠原 昭 降旗 剛寛 滝沢 達夫
小笠原 真 矢彦沢清允 白井 要範